



ことすが
谷川士清の足跡④

じんぐう じ
神宮寺

バス…三重交通バス「土手」下車徒歩10分

車…伊勢自動車道津ICから車で8分

谷川士清旧宅のある八町通りを西に進み、右手に街道を離れて安濃川に架かる橋を渡ると納所町に入る。ここ納所町に神宮寺はある。

神宮寺は古くから伊勢神宮との関係が深い。

本堂の御倉堂（市指定文化財）は市内でも古い時期（江戸時代初期）の木造建築物で、この寺所属の神田から献納される米を、現在も寺に伝わる古枡を用いて計量し、外宮へ送ったことからその名がある。

士清は、神宮寺に残るこうした資料の調査にも熱心であった。今に残る慶長5（1600）年の古枡やその関係用具、神田記などの記録を行っている。また、御倉堂には、これも市指定文化財の三十六歌仙扁額があり、裏書からその制作と保存の経緯を知ることができる。

士清は、この歌仙の書を色型紙に書き直し、今に残る色型紙の文字は、まさしく士清の真筆として確認されるもので、貴重なものである。

士清は、本業の町医者としてのほか国学者として緻密で膨大な作業を通じ『日本書紀通証』『和訓栞』などを著し、教育者として洞津谷川塾を開いて子弟教育にもあたった。また、多くの和歌を残す文人であり、神道家として自ら垂加神道の流れを守りつつ、実証的史観に基づいた歴史研究にも尽力した。

江戸中期、多彩な才能を十二分に発揮して各分野で活躍した偉人、谷川士清が生まれてから今年でちょうど300年を迎えた。

（「広報津」平成21年3月1日号）

